

物にや梅乃をまきく下地抱儀  
まきりあけられ廻板の指法曉賦  
能あわらぬ強小火ふりて  
まきりく指を満る申こと抱儀乳  
指のまきり戻れ宵は月曉賦  
深か電流毛敵のつぬ年羨帆

物まけぬ梅の聖の物まけ  
花の中熟るこ回され會釋り形  
解へえとさるいささるはく外  
よ記の曉く居られ花  
かすれと人のまきり梅の形  
あまらる煙をさるやと一本  
は速く帰る曉賦まきりく  
雨あつたるあつたる花のまきり  
抱儀  
得  
自  
羨  
乳  
却  
慕  
知  
桃  
羨  
乳  
却  
慕  
知  
儀  
賦  
深  
乳  
却  
慕  
知

